川崎病におけるγ－グロブリン大量点滴療法
― 冠動脈障害の長期観察成績 ―

古庄巻史
小倉記念病院小児科

研究協力施設
静岡県立こども病院，同仁会耳原総合病院，京都府立医大，近畿大学，京都大学，和歌山赤十字病院，国立京都病院，神戸市立中央市民病院，天理よるず相談所病院，倉敷中央病院，国立循環器病センター，島根医科大学，大阪府立母子保健総合医療センター，小倉記念病院

（目　的）

表記の１４施設によるcontrolled studyによってγ－グロブリン大量点滴療法がアスピリン療法に比較して，川崎病患児における冠動脈障害（CAL）の発生を有意に減少させることは先に報告した。ここではそのstudyで対象となり，CALの証明された症例についての長期follow成績を検討する。

（対象および方法）

1983年4月から1984年4月まで表記１４施設に川崎病を発症して入院した患児を対象とした。症例はいずれも発症7日以内に治療開始できるものとし，不全型および再発例は除いた。コントローラーの指示に従ってアスピリン単独治療群（ASA群）とγ－グロブリン大量点滴療法群（ＧＧ群）に分けた。ASA群には従来のアスピリン療法を，ＧＧ群ではアスピリン療法を行いながら同時に初日よりＳ－スルフォ化γ－グロブリン（ベニロン）400mg/kg/日・５日間，連続点滴静注した。

CALの検索については入院時を含め週３回６０病日まで断層心エコー検査（2DE）を行った。治療開始時すでにCALの認められたものは除外症例とした。2DEにてCALの認められたものは全例，30～６０病日の間に選択的冠動脈造影検査（CAG）を行い，CALの残存する症例については，少くとも１カ月に１回来院させ2DEまたはCAGによってCALの状態を発病１年間にわたって追跡調査した。

（結　果）

本研究での解析対象となった症例はASA群４５例，GG群４０例である。各群での患児の性別，年齢，異常のみられた冠動脈の部位を表１に示した。CALの発生は各群とも幼若年齢ほど多くみられ，しかも両側冠動脈が同時に障害される率が多かった。

本症経過に伴なうCALの消長を表２に示した。３０病日以前の急性期にCALの証明されたものはASA群で４５例中１９例（42.2％），ＧＧ群では４０例中６例（15.0％）であり，ＧＧ群で有意（$p<0.01$）に低率であった。以下３０病日，６０病日，３カ月まではASA群でそれぞれ１４例

（31.1％），12例（26.7％），9例（19.8％）であり，GG群ではそれぞれ3例（7.5％），2例（5.0％），2例（5.0％）であり，いずれも有意にGG群でのCALの残存が少なかった。しかし，6カ月，9カ月，1年の時点でのCALの残存はASA群ではそれぞれ6例（13.2％），4例（8.8％），3例（6.6％）と次第に減少し，GG群ではそれぞれ2例（5.0％），2例（5.0％），1例（2.5％）であった。この3時点でのCAL残存率は両群に有意差はなかった。

（結　語）

以上の結果よりGG療法は急性期CALの発生を明らかに減少させるとともに，発症3カ月までのCALの残存をも有意に減少させた。6カ月以降，1年までのCAL残存率はASA群，GG群とも有意差はみられず，1年後のそれはASA群6.0％，GG群5.0％とほぼ同率であった。しかし，ひとたびCALが発生し，それが経過とともに外見的には正常化したようにみえても病理学的にintactな血管に修復されているのか疑問の残るところであり，最も重要なことは，いかにCALの発生を少くすることにあるといえよう。

表 1　冠動脈障害の長期経過観察症例

項目		ベニロン 全例	ベニロン 異常例	アスピリン 全例	アスピリン 異常例
性	(男：女)	40(24：16)	6(2：4)	45(25：20)	19(11：8)
年齢	1歳未満	11	4	14	9
	1～2歳	9	1	13	6
	2～3歳	11	1	9	3
	3歳以上	9	0	9	1
部位	右		0		1
	左		2		2
	左右		4		16

表 2　冠動脈障害の長期follow成績

		症例数	入院時	急性期	30病日	60病日	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	1年
アスピリン	45	N	45	26(57.8)	31(68.9)	32(71.1)	33(73.2)	37(82.2)	39(86.7)	40(88.8)
		Dil	0	11(24.4)	7(15.6)	7(15.6)	6(13.2)	4(8.8)	3(6.6)	2(4.4)
		ANm	0	8(17.8)	6(13.3)	5(11.1)	3(6.6)	2(4.4)	1(2.2)	1(2.2)
		ANl	0	0	0	0	0	0	0	0
		SL	0	0	1(2.2)	0	0	0	0	0
		不明	0	0	0	1(2.2)	3(6.6)	2(4.4)	2(4.4)	2(4.4)
ベニロン	40	N	40	34(85.0)	37(92.5)	38(95.0)	38(95.0)	38(95.0)	38(95.0)	38(95.0)
		Dil	0	4(10.0)	1(2.5)	0( )	0( )	0( )	0( )	1(2.5)
		ANm	0	2(5.0)	2(5.0)	2(5.0)	2(5.0)	2(5.0)	2(5.0)	1(2.5)
		ANl	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		SL	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		不明	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

(目的)

表記の 14 施設による controlled study によってγ一グロブリン大量点滴療法がアスピリン療法に比較して,川崎病患児における冠動脈障害(CAL)の発生を有意に減少させることは先に報告した。ここではその study で対象となり,CAL の証明された症例についての長期 follow 成績を検討する。